

一瞬の心のスキが

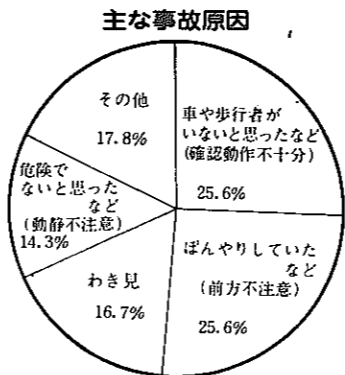
交差点での事故が大半

ちよつとした注意で防げます

昨年発生した交通事故の主な原因のうちで最も多いのは「他に車や歩行者がいなかった」という当事者の思い込みによるものでした。たぶんだいたいぶだぶだろ、相手が譲ってくれるだろう、と思ひ込む「だろ」運転や運転技術の過信が、一瞬の心のスキを誘って大きな事故を引き起こしています。ますます複雑多様化する車社会の中で、一人一人が正しい交通ルールを身につけ、事故に遭わないように、また事故を起こさないよう気をつけたいものです。

対向車は来ないと思ったのに...

白根警察署の調べによると、昨管内で起きた交通事故のうち、半数が交差点での出会いがしらの事故となっています。



- ① 交差点での一時不停止
- ② 左右の安全不確認
- ③ 信号無視

これらからみると、交差点の事故のほとんどは運転手のちよつとした注意で防げたものといえます。

幹線農道はサラリーマン道路?

増え続ける交差点事故のなかでも、最近特に増えているのが幹線農道での事故です。近年道路整備が進み、「農道」といっても実態は県道や市道のバイパス的役割をもっています。特に朝夕の通勤時間帯には、ラッシュを避けようとする多くの車が、幹線農道を利用

しています。幹線農道は、ほ場整備事業とも関連し、近年急速に整備が進められていますが、そのため、交差点の数も増え、一般の県道・市道に比べて標識の整備などの安全対策が追いつかないのが実情です。また周閉に電柱や立ち木などがなく、非常

に見通しが良いという利点がありますが、その反面、対向車の速度が測りにくいという欠点も持っています。農耕車優先の幹線農道が、通勤用のサラリーマン道路として

バイパス化している事実は、交通事故増加の大きな要因となっています。サラリーマン道路をご利用の皆さん、スピードを出しすぎてはいませんか。

増えるお年寄りの事故

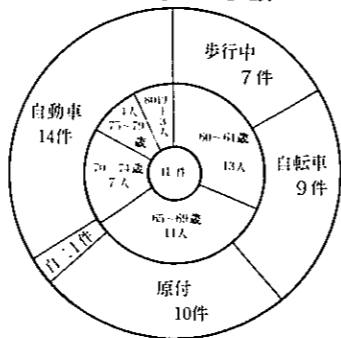
交通量の多い道路を、車の流れを無視してゆうゆうと渡るお年寄りの姿に、ヒヤリとした経験をお持ちの方も多いのでは。白根管内のお年寄りの事故は、昨年の28件から、昨年は一挙に41件に増えました。お年寄りの事故件数の増加は、管内のみならず全県的な傾向として注目されていますが、特に自動車や原付の運転中の事故が一昨年の16件から昨年は25件と激増しています。これは、高齢者ドライバーの増加により、これまで交通弱者とされてきたお年寄りが、逆に加害者となる例が増えていることを示しています。

お年寄りの事故の特徴は、①むちゃな道路横断などお年寄り自身の交通ルール無視

だろ、運転からかも運転へ

「もう一回右を見てればノオ...」と悔やんでも遅いのです。白根警察署交通課の椎井課長は「かも運転をするように心がけないと、事故は減らない」と話します。「かも運転」「かも運転」、耳慣れない言葉ですが、「車が来るかもしれない」「子供が飛び出すかもしれない」

お年寄りの事故



なぜなくなるの? 飲酒運転

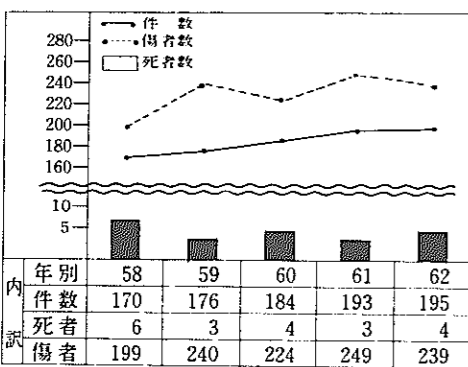
ほんとうに、なぜなのでしょう。昨年の白根管内の飲酒運転による事故件数は7件、検挙件数は43件(昨年は事故件数14件、検挙件数56件)といずれも減少しています。しかし、6月には死亡事故が発生するなど、一歩間違えば重大事故につながるだけに、ドライバーの自覚が問われるところでもあります。

検挙者の6割近くは土・日曜日に集中し、時間帯では、午後10時から午前2時の深夜に半数以上が検挙されています。年齢は30歳代から40歳代が最も多く、この年代だけで半数を超えています。

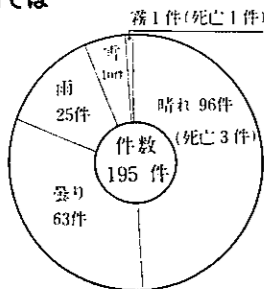
「少し休んでから運転すれば...」「少ししか飲んでいない」とハンドルを握るのは最も危険。飲んだら乗らない、飲むなら乗らないというドライバーの常識が、なぜ守られないのでしょうか。酔っていないつもりでも、判断力や注意力が鈍っています。「酒には強い」と自負するお父さん、気をつけましょう。

増え続ける事故

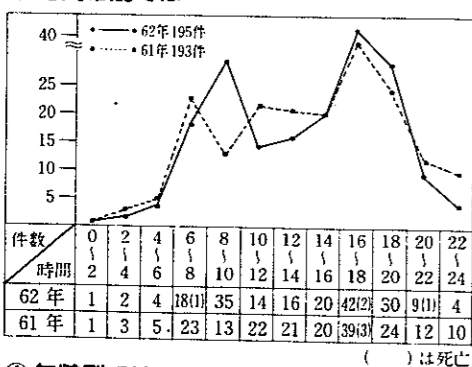
① 発生状況



② 天候別では



③ 時間帯別では



④ 年齢別では

